

教育センター学びの丘研修員における学びについて

和歌山市立西脇小学校

教諭 滝 畑 伸 康

和歌山県教育センター学びの丘における研修員としての研究と修養を通して、教員としての資質・能力の向上を目指し、研鑽を重ねた。その1年間の学びについて述べる。

修養では、様々な研修講座や研修員研修を、これまでの自身の教育活動を振り返りながら受講することで、多くの指導方法や技術を学び直すことができ、自己の専門性を高めることができた。

研究では、児童が自ら数学的な見方・考え方を働かせる力を育成するために、数学的な見方・考え方を学習指導要領の記述を基に、教科書の学習内容と照らし合わせ具体化し、単元計画に組み込んだ。また、働かせた見方・考え方のよさを実感し自ら活用していくことをねらい、発問を工夫して指導を行った。その結果、数学的な見方・考え方の価値に児童自ら気付くことができ、その後の問題解決に見方・考え方を働かせる姿が見られた。この研究を通して、教師がいつ、どこで、どのようにして児童に「見方・考え方」を働かせるかを意識して適切な問い直しを行うことが一層大切だと感じた。

今後も、研修員として学んだことを生かし実践に取り組むことで、所属校の児童の成長に貢献できるよう努めたい。